

# 「合併して3年。これまでの成果と課題を検証し、一体的な発展を目指す」



滝口季彦市長

3月4日に開催された市議会本会議で、滝口季彦市長が平成20年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。(全文はホームページに掲載しています。)

**平** 成も20年という節目の年を迎え、誰しも「ときの流れ」を感じておられると思いますが、私自身、昭和53年に旧庄原市の市議会議員として初当選以来、議員の立場、市民の立場、また、市長の立場で「ふるさと」を見つめ、「夢」を語り、地域の振興と発展に努力してきた半生を振り返っております。

特に、ここ数年は、初代市長として合併直後のまちづくり、市政運営を託された責任を痛感する日々でございますが、新年

度が現在任期の最終年度でもあることから、これまでの成果と課題を検証しつつ、強い決意を持って臨む覚悟でございます。

**国** 会が揺れ、株価が迷走し、格差が広がる不安定な社会経済環境のもとで、過疎化や少子高齢化の進行、基幹産業の衰退、厳しい財政状況をはじめ、産科医師の不在や制度改正に伴う保健・福祉分野での対応、老朽化が指摘される学校・保育施設、都市部との格差が際立つ情報基盤の整備など、各分野に及ぶ地域特有の課題は、年々、深刻化しているのが実情でございます。

これら本市が抱える深刻な課題に対して、特効薬を見つけ、直ちに完治させることは困難と言わざるを得ませんが、できる

ことから実行し、小さな成果を集め、重ねることによって花を咲かせ、また次の種をまきながら未来を切り開いてまいります。

**私** は、市長就任に際し、「一体的な発展」を目指すことが、新市の進むべき方向であるとの認識をお示しいたしました。

一体感の醸成は、市民一人一人の「思い」や「感情」で判断される面もございますが、合併協議における47の確認項目のうち、「当面、現行のとおり」とした施設使用料や生活バスの運行方法、一部の補助金や手数料などに関し、合併後3年が経過する中で内容・基準の統一化を図り、地域差の解消に努めてまいりました。

機構の見直しに加え、企業・団体における活動や組織形態、地域間交流の状況などを見ましても、年を追うごとに「合併したんだな」「ふるさとを共有しているんだな」という市民意識が定着しつつあるように感じております。

一方、一体的な発展は、均一的・画一的な地域整備を意味するものではなく、旧市町に所在する資源や魅力、個性などを活かして地域づくりを行い、地域全体がまとまりをもって発展することを意図しております。

保健・福祉・医療・教育など、行政として提供すべきサービスは、当然に同様でなければなりません。道路や施設、都市基盤の整備等の面では、全体を見据

## プロジェクトの推進

え、それぞれの実情・実態に即して実施しなければならぬ事業もでございます。

長期総合計画の中では、この一体的な発展を、ぶどうの房を意味する「クラスター型の未来都市づくり」と記述しておりますが、総合計画の実施計画に沿った施設・基盤の整備のみならず、その理念・構想に基づいて、新年度から各支所管内を対象とした特徴的な事業実施を予定しております。



**農** 林業を本市の基幹産業として位置づける中で、市内の経済構造を農林業起点の循環システムへと再構築し、心豊かな暮らしや地域文化を復活・再生すべく「みどりの環 経済戦略ビジョン」を掲げ、平成18年度から3つのプロジェクト事業を推進しております。

### 木質バイオマス活用プロジェクト



**半** 世紀ほど前、豊富な森林資源は、焚き木を束ね、薪を割り、炭を焼くことで人々の生活、さらには地域社会をも支えておりましたが、より効率的な新資源への急激な移行、いわゆる「エネルギー革命」によってその需要は消失し、山に入る人影は薄れ、美しい里山の風景までも失われつつあることは否定できません。しかし、原油価格の高騰や地球規模での環境問題に注目が集まる今日、まさに「時代は繰り返す」とおり、再び森林や木材が有する多様な機能・エネルギーがクローズアップされ、各国・各地域において、化石燃料に代わる新たなエネルギー

ギーとしての資源開拓、新産業の創出を視野に入れた開発競争が展開されております。

**こ** うした時代の要請、新たな需要の発生は、豊かな森林資源を有する本市にとって紛れもない好機であり、特に木質バイオマスの活用に関しては、今年度、民間企業との連携によるエタノール製造の実証実験棟の整備、リフレッシュハウス東城へのチップボイラーの導入が実現したほか、新年度において、未来の燃料として期待されるバイオエタノール、植物性プラスチックとして利用が見込まれるリグニン、ディーゼルエンジンから排出される有害物質を除去する「排ガ

ス浄化溶液」など、いずれも木材を原材料とする付加価値の高い工業製品の製造工場が建設予定となっており、次の段階に向けて確実な歩みを進めております。

### 農業自立振興プロジェクト

**国** の政策転換や過疎化・高齢化に伴う耕作放棄地の増加、農産物価格の下落と経営経費の高騰、イノシシ被害や風雪災害など、基幹産業を取り巻く環境は、国・地域の課題と相まって、複雑かつ厳しい方向に推移しているのが実情でございます。

ここを塞げば、あちらが吹き上げ、あちらを塞げば、こちらに漏れ出す。ともすれば空しい愚痴がこぼれる状況にありましても、決して、逃げたり諦めたりはいたしませんし、日本の食料自給率が40%にまで低下した現状、輸入食品への不安が募る昨今の報道を強い危機感をもって受け止めており、地域の発展、さらには国家繁栄の基礎となる農業の再興に、不退転の決意をもって取り組んでまいります。



本格工事が始った新庁舎建設

い」を呼び覚ますとともに、その想いを受け止める環境づくりを重視しており、一人でも多くの帰郷・定住が実現するよう、粘り強く取り組んでまいります。

### 行政拠点の確立

**多**くの皆さんからご意見、ご理解、ご賛同をいただき、新庁舎建設の本格工事が始まりました。合併から3年。分散した本庁組織や手狭な施設状況により、市民の皆さんに負担、戸惑いをおかけしておりますが、

林振興公社を核とした農産物の集荷と直販、新規作物の開発・普及など、独自の取り組みを展開しております。成果として現れるのは、これからという段階ではございますが、農家の皆さんと力を合わせ、工夫し、続けることで新たな地域農業の姿を描いてまいりたいと考えております。

### 観光振興、定住促進プロジェクト

**本**市の入込観光客数は、自然志向の高まりと豊富な観光資源を背景として安定的かつ増加傾向で推移し、私自身、中国山地の山々や里山文化に育まれた景勝地、丘陵公園・温泉施設といった新たな観光施設、各地域で開催される多彩なイベントを訪れた際、満喫感と笑顔にあふれた多くの人々に出会い、驚きと喜びを感じております。しかしながら、経済効果や一人当たりの観光消費額においては、伸び悩んでいるのが実態であり、今以上に「知ってもらおう」「来てもらう」「感じてもらう」ことを前提としつつ、そこに「泊まってもらおう」「食べてもらう」「買ってもらおう」という視点を加えて、



**誰**もが認めるとおり、農業にかかわる皆さんには、「農を守ることは地域を守ること」「先人の知恵と努力は地域の財産」との想いが脈々と受け継がれており、こうした意欲に込められただけでなく、種別、形態、地域実情、人材の確保と育成、安心・安全な農畜産物の安定供給、需要・販路の拡大といった生産から流通の過程におけるさまざまな現状、あらゆる課題を調査・分析し、引き続き効果的な支援策を講じる必要がございます。

順調に工事が進めば、来年2月末には、「未来への道しるべ」として、また、「ふるさとの灯台」として機能すべき行政拠点が完成いたします。

しかし、当然のことながら施設整備のみをもって拠点とはなり得ず、私をはじめ、職員個々が果たすべき役割を自覚し、資質向上・スキルアップに努めながら、全体の奉仕者、住民福祉の底力として、その能力を発揮、活用しなければなりません。さらに、行政と市民の「協働意識」に基づく行政運営、実践活動が求められる中で、行政のプロであるが故の固定観念にとらわれる傾向があることも事実でございます。そこに市民の柔軟な発想や新鮮なアイデアが加われば、きつと良い方向に進み出すと思えますし、市民も「お任せ体質」で行政に要求するばかりでなく、自分たちのできることを考え、行政と向き合い、ともに歩む姿勢を持つことが「協働」の第一歩であると思うところでございます。

**合**併から4年目を迎えるに当たり、情報基盤や生活基盤の整備、教育・福祉の充実、地



筋を切り拓く必要がございます。都会人の意識に羨望を与える美しい自然景観、生活文化に彩られた里山環境をはじめ、すべての地域資源を見つめ、結び、さらには市民の知恵と力を喚起しながら、観光産業化の確立に努力してまいります。

**目**本の総人口が減少へと転じる中、高齢者比率が50%を超え、社会的共同生活の維持が困難と定義付けられた「限界集落」の増加が懸念されており、本市にも該当地域が所在するところとご承知のとおりでございます。こうした現実を誰も望んでいないことは明らかですが、一方では「自分たちは何とかかなから、好きなことをしなさい」と我が子を育て、都会へ送り出した方も少なくはなく、そうした過去を振り返れば、誰もが「予想できた結果」であることも

域産業の再興など、将来像の現に向けた円滑な事業進捗が要請される一方で、平成18年度決算による本市の財政状況は、経常収支比率97・5%、実質公債費比率22・3%と、いずれも前年度比較で悪化しており、引き続き「持続可能な財政運営プラン」に基づく歳入確保と歳出抑制に留意した予算編成、財政運営が求められております。

これらの経過・状況を踏まえ、新年度においては「長期総合計画の実施計画に沿った事業実施」「重点プロジェクトの推進」および「財政健全化への取り組み」を基本に掲げ、普通建設事業の計画的実行、福祉・教育・産業・定住分野への集中投資、地方債発行額の抑制、事業手法の見直しなど、厳ししながらも新たな第一歩を踏み出す意図をもった予算編成に努めたところでございます。

### 「美しい日本のふるさと」の実現を

**自**治体は、いつの時代にあっても、また、どの地域にあつても、

認めざるを得ません。しかし、過疎化の背景には、高度経済成長期における都市部への人口流出、今日における経済のグローバル化や交通・交流事情など、さまざまな外部環境の変化が指摘されており、加えて価値観や生活観の違い、就労の場や住居の確保といった個々の要因も所在することから、誰も責めることはできませんし、それだけ人口の維持・増加が容易でない挑戦であることにほかなりません。

**こ**れらの状況を踏まえつつも、私たちは、できること、しなければならぬことを行政・地域・家庭の立場で改めて考え、暮らしを、地域を、そして「ふるさと」を守り、未来へつなぐ使命を負っております。

定住プロジェクトでは、「帰ってこいや 待っとるよ」という視点を持って、本市で生まれ育った出身者が抱く「望郷の想

でも、その内容に違いはあるものの多くの課題を抱えております。行政運営にかかわった先哲の誰もが、なかなか追いつくことのできない「もどかしさ」を感じながらも、ときに早足で、ときに着実な前進によって困難を乗り越え、自治の歴史を重ねてこられました。今を生きる私たちも、新しい時代の物語を綴るため、決して諦めることなく挑戦を続け、課題を克服して行かなければなりません。

**私**は、「誠の心」もさることながら、あえて「正しい心」を用いた「正心誠意」を座右の銘としております。冒頭で触れました偽装事件などの報道に接するとき、改めて「正直な態度」「ごまかさない姿勢」が信頼を生み、感動を呼び、人の心を動かす原点であると思うところであり、引き続きこの信念を堅持しながら、市民の皆さんが幸せを感じ、夢をもち、誇りをもって「美しい日本のふるさと」と呼ぶことのできる地域社会の実現に努力してまいります。議員各位、並びに市民の皆様には、今後とも、一層のご支援とご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。